

# 「五葉山の魅力」

## 五葉山自然倶楽部 創立10周年に寄せて

93

昭和四十年八月末、私は二十歳の誕生日を迎えたばかり。友人の千葉則夫さんに誘われて、初めての五葉に登った。二週間前まで十二指腸で約半年間入院して、やっと退院したばかりだった。

頂上の小屋で二泊。当時は、寝袋など持つ身分ではなく、一人毛布一枚。八月末とは言え、夜は寒くて寝られなかったことを思い出す。朝が待ち遠しかった。

当時の小屋は、今のうすゆき山荘より二回り大きいガランとした小屋で、側面はブリキ。夜、風の強い時はギリギリ、ガリガリ音を立てていた。二階は特に広かった。

原生林の神秘的な美しさ、頂上より見える早池峰、そして太平洋。何もかもが嬉しかった。その後、今の山岳会に入り、早春の大沢を登りつめて、五葉の頂上に立った時、何となく一人前の山歩きになったかな？そんな気がしたものである。私の仕事は魚屋。今でこそ休日には沢山あり、山に行く回数が多いが、以前はせいぜい月一度くらいだったような気がする。

# エッセイ

## 五葉山と私

宮城県気仙沼市 藤村 起夫

位で歩ける東北の山々は、随分と歩かせてもらった。でも、時間ギリギリで歩かためか、遠くの山ほど忙しい歩き方を強いられた。五葉は車で行けるためか、ごこのんびりと行く気分になる山の一つ

山開きの前日、友人三人としゃくなげ山荘手前のシャクナゲの樹間にテントを張り、夕食を楽しんでいる時に、何やらケンカのような様子。それが一方所に止まらず、私達のテントまで来て「出ろ」と言われ、訳も分からずテントをひっくり返

だ。

もったも、若い頃は自分の車などではなく、盛駅からバスにゆられて甲子まで行き、それから山を歩いた。その日のうちに帰宅するとなんと大忙しで、帰りは大沢コースを必ず走って下山したものだ。一つ苦い思い出がある。昭和四十二、三年頃の話だ。

帰宅後、気仙沼警察署より呼ばれ、写真と事件のことを詳しく話すことになり、その後全員がおしかりを受けたことを知らせてもらった。K市の連中だったそうなの。それから、何度か五葉山に足を運んだ。漁り火を見ながらの登り。秋の深い夜、鹿の鳴き声を聞きながらの山行。大沢から黒岩コースの長い縦

たり、それらを楽しんで求める人達が目的に応じて歩く。五葉には、春のツツジやシャクナゲ、クマヤシカの動物、素晴らしい原生林など、他に例をみないほどの魅力がある。この自然の美しさは見る人も登る人も、その土地の人達のみならず、大切に守って行きたいものである。余り人の手を加え

るのではないように、と付け加えておきたい。【執筆プロファイール】一九四五年生まれ。宮城県気仙沼市在住。気仙沼山岳会「彼峰の会」(あほうのかい)会長。「市民ハイキング」を主宰し、三十八年連続焼石岳登山の実施や「市民の森」にブナ、クヌギ、ナラなどの植樹活動を展開。魚

走。深い雪をかきわけて小屋泊まり。随分と時折の山歩きをさせてもらった。山を歩く人はいろいろな人が多い。私は静かなゆったりした五葉山を楽しまない。春夏秋冬、五葉山に限らず、その土地の山にはそれぞれの特徴があり、草木にしろ、山容にしろ、沼があったり、素晴らしい岩があっ

た。静かになった時、私はカメラで全員をパチリ。山開きに登って来た警察の人にすべてを話した。



五葉山頂上部付近日枝神社から黒岩方面を望む